

季刊

青春本棚通信

vol.6 (2018年1月発行)



みんなのイラスト投稿待ってます！

今回のイラストは、青春本棚担当(森)が描かせていただきました。新聞のヤング新春イラストに投稿しようと思って描いてましたが、よく考えると年齢的にヤングはないな…と気が付いた(描く前に気付い！)ので、こちらに使いました(笑)。次回から投稿イラストに対するコメントを、ココに書こうかなと思っています。もちろん批判・ダメ出しはしませんのでご安心を。描いている人間だから分かるのですが、イラストは時間と手間が掛かる投稿です。ですから、皆さんが投稿してくれたイラストは「私もガンバって描こう！」という励みになっています。ぜひ投稿してください！今回は4月発行なので卒業・入学など、春を感じるイラストがいいですね。

中高生向け読書会オーダーブッククラブに参加しませんか？

10月から始まった中学生・高校生オンリーの読書会『オーダーブッククラブ』(毎月1回開催)も、あと3回となりました。

開催日は、**1月14日、2月11日、3月4日(いずれも日曜日)**の午後3時～4時になります。

図書館からのオーダーに沿った各自のオススメ本を楽しく語り合う会です。青春本棚担当者など図書館職員も楽しく対応させてもらっています。これまで毎回予定時間をオーバーしてみんなしゃべりまくってますよ！(笑)

「わたしも参加したい！」という中学生・高校生の方は、下記までお申込ください。1月以降の途中参加大歓迎です！



※ハリネズミは参加できません

～開催内容～

日 時: **1月14日(日曜日)** 【オーダー: 腹筋が鍛えられる本】
2月11日(日曜日) 【オーダー: 卒業したくなる本】
3月 4日(日曜日) 【オーダー: 旅立つ友に捧げる本】

いずれも午後3時～4時ごろまで

場 所: 松山市立中央図書館 2階文化活動室

対 象: 松山市内在住・在学の中学生・高校生

人 数: 各回10名程度【何回参加してもOK(1回のみでもOK)】

申込先: 図書館カウンターに直接、または中央図書館事務所まで電話・Eメールで氏名・連絡先・学校名・学年を連絡してお申込ください。

第4回中央図書館ビブリオバトル結果発表！

11月5日（日曜日）「第4回 松山市立中央図書館ビブリオバトル」が開催されました。

出場した中学生・高校生バトラーが、オススの本をそれぞれの熱い語り口で発表（紹介）し、会場の観客もどんどん引き込まれていきました。本好きにはたまらない、とても充実したひとときでしたよ。

読者に少しでも臨場感が伝わるよう、今回バトラーが発表した本について、発表を聴いた青春本棚担当の感想を添えて紹介します。「バトラーの皆さんは、学校の先生や友人以外で発表を聞いた人の感想を、あまり聞いたことがないのでは？」と思い、少しでも参考になればと考えました。今後ビブリオバトルをする際に役立てていただければ幸いです。

これを見て、「なんだか面白そうだな」「全国ビブリオバトルの練習になるかも」と思った皆さん、来年も中学生・高校生のエントリーをお待ちしていますので、ぜひ参加して下さい！バトラーでなく会場で観戦するのも結構楽しいですよ♪

そして読者の皆さん、今回バトラーが紹介した本を、この機会にぜひ一度読んでみてください！！

松山東高等学校（1年生）北山菜吟さん 紹介本『塩の街』（有川浩//著）

《作品の紹介》『塩の街』（有川 浩//著）

『図書館戦争』などの作品で知られる有川浩のデビュー作。

東京湾沖の埋め立て地に落下した、巨大な塩化ナトリウムの結晶を“視認”することにより感染し、体が塩化して死に至る病「塩害」により、関東圏の人口は3分の1に減り、政府機関も事実上の壊滅状態に陥る。警察も機能せず、治安は悪化し「狩る側」と「狩られる側」の戦いが日常となった。両親を「塩害」で失い、「狩られる側」となった真奈は、偶然出くわした元自衛官の秋庭に助けられ、いっしょに生活することになる。ふたりの時間が時に穏やかに、時に激しく過ぎていく中、秋庭と真奈の気持ちは徐々に変わっていく。



（担当者の感想）主人公・秋庭 高範と、ヒロイン・小笠原 真奈のそれぞれの人間性や、お互いの関係性に主題をおいた発表に感じました。登場人物の印象的な台詞を紹介し、自分の考える率直な人物像を語る展開に引き付けられました。また作品のキーとなる人体が塩化して死に至る病「塩害」や全体のストーリー構成についても、簡潔にわかりやすく解説がされ、構成のバランスもよく、全体的にとっても聴きやすい発表だったと思います。

惜しいなと思ったのは、トップバッターの緊張からか、少し声のボリュームが小さく感じたことです。発表内容はとても良かったので、肩の力を抜いて、もう少し大きな声で発表できれば、チャンプは近いと思っています。運営側も来年はトップバッターがあまり緊張せず発表ができる方策を考えます。（青春本棚担当が前座をするかも！？）

松山城南高等学校（3年生）藁池将成さん 紹介本『METAL GEAR SOLID THE PHANTOM PAIN』（野島一人//著）

《作品の紹介》『METAL GEAR SOLID THE PHANTOM PAIN』（野島 一人//著）

1987年から発売され続けている人気TVゲーム「METAL GEAR」シリーズ第8作のノベライズ作品。

1980年代を舞台に凄腕の傭兵「スネーク」の活躍を描いた軍事SFアクション。時間軸は米ソ冷戦時代という過去の物語だが、「METAL GEAR」と呼称される軍用ロボット兵器群がSFのスパイスとなり、物語に深みを与えている。登場人物がそれぞれ独自のイデオロギーや戦争観を持ち、行動や台詞に色濃く現れているのが特徴の作品。

1984年3月11日。病室で目を覚ましたヴェノム・スネークは、自分が昏睡状態のまま9年間も眠り続けていたことを知らされる。相棒のミラーがアフガニスタンでソ連軍に拘束されていることを知ったスネークは、ミラー救出のためアフガニスタンに潜入するが、その前に異形の兵士で構成されたスカルフェイス率いる謎の部隊「XOF」が立ち上がる。戦いの末、スネークは遂に隠された自らの正体を知ることになる…



（担当者の感想） 全バトラーの中でも特に情熱的な発表で、作品への愛情をひしひしと感じました。主人公・ヴェノム・スネークや、宿敵・スカルフェイスについての人物像に着眼した紹介でした。2人の印象的な台詞を紹介し、そのイデオロギーや戦争観について、自らの考察を交えて語り、非常に重厚な人物設定であることがよく伝わってきました。

惜しかった点は、ストーリーや作品の設定等についての紹介が手薄になってしまい、作品の内容がよく伝えられなかったように感じられたことです。シリーズ前作の「ピースウォーカー」との繋がりや、原作ゲームの内容をうまく利用して、冒頭に「作品の主人公がゲーム1作目の敵ボスキャラ」くらいのネタバレでインパクトを与えるのも面白かったかと。まあゲーム1作目をプレイしたことある人自体ほぼ皆無ですが。（私はプレイしてますけど…）



《作品の紹介》『ストロベリーライフ』（荻原 浩//著）

第63回(2017年)青少年読書感想文全国コンクール(中学校の部)課題図書にも選ばれている直木賞作家・荻原浩の作品。

主人公・恵介は、36歳のグラフィックデザイナー。実家の農家だけは継ぎたくないとして東京に出てきたが、父が倒れたことをきっかけに、突然、実家のイチゴ栽培を手伝うことになる。最初は嫌がっていた恵介だが、次第にその魅力に目覚めていき、東京の事務所をたたみ静岡の実家に居を置くことに。東京育ちの妻は猛反対で別居状態の中、高設栽培・イチゴ狩り農園・海外進出など、どんどんイチゴにのめり込んでいく。果たして恵介は理想のイチゴと家族の両方を手にすることができるのか？



（担当者の感想） バトラーの明るい性格が如実に現れたとても朗らかな発表で、会場が一気に笑顔に包まれ、ある意味最も印象深い発表でした。こちら聴いているだけで本当に楽しい気分にはさせられましたよ。

作品の主題である「農家」に主眼を置いた紹介で、自らの農家に対する考えを織り交ぜ、主人公の成そうとする理想の農家への取り組みの大変さを訴えることで、主人公への共感を呼びこむ展開であったと感じました。「農家」部分の発表印象が強く、この作品のもうひとつのキーである「家族の再生」の部分をもう少し出せれば、さらに良かったと思います。

それにしても、あの声量で楽しく紹介できるのは、バトラーとしてとても大きな武器だと思います。これからも頑張ってください。

新田高等学校（2年生）一柳侑里さん 紹介本『君の脾臓をたべたい』（住野よる//著）

《作品の紹介》『君の脾臓をたべたい』（住野よる//著）

『よるのばけもの』、『か』『く』『し』『ご』『と』などの作品で、中・高校生に人気の作家・住野よるのデビュー作。

主人公の「僕」が病院で偶然拾った「共病文庫」という名の文庫本。それは「僕」のクラスメイト・山内桜良の秘密の日記帳であり、彼女が脾臓の病気により、余命幾ばくもないことが記されていた。はからずも身内以外で唯一桜良の病気を知る人物となった「僕」は、桜良のさまざまな「死ぬ前にやりたいこと」に付き合わされることになる。他人との関わりに必要性を感じられなかった「僕」と、自分から関わりを求められなかった桜良、いびつな2人は急速に心を通わせていく。

桜良の死期が近づいてくる中、「僕」は、人を認め、愛する人間になることを決意し、桜良は「僕」に関わりを持ちたい人として必要とされることで、初めて自分が1人の人間であることを実感していく。



（担当者の感想） 「君の脾臓をたべたい」という言葉の持つパワーと、変人と言ってもいい「僕」というキャラクターの持つパワーの2点に着眼した発表であったと感じました。情熱的な語り口で、それぞれ独自の解釈を展開し、うまく聴衆を引き込めていたと思います。

惜しいと思ったのは、この物語の片翼であるヒロイン・桜良の紹介がすこし手薄になってしまったことです。死期の迫る非日常的な境遇の桜良と、日常お見かけしない変人キャラ「僕」のふたりが主軸の作品なので、もう少しふたりをバランスよく紹介したほうがよく伝わったのではないかと思います。発表時間が少し余ってしまったので、本当に惜しかったです。

桜良の親友・恭子など数少ない登場人物も、うまく利用できたかもしれませんね。



新田高等学校（1年生）筒井大晴さん 紹介本『君が夏を走らせる』（瀬尾まいこ//著）

《作品の紹介》『君が夏を走らせる』（瀬尾 まいこ//著）

中学校駅伝大会を描いた著者の前作『あと少し、もう少し』に登場する寄せ集め駅伝ランナーの1人・不良の大田を主人公にした青春小説。

金髪にピアス、一見絵に書いたような不良の俺(大田)が、先輩から頼まれた夏休みのバイトは、1歳10か月の女の子のベビーシッターだった。子どもの世話なんてもちろんやったことがない俺は、家事に育児に悪戦苦闘！何とかひと夏を乗り切れるのか！？

大人になりきれない心優しい16歳の不良少年と、小さな女の子との出会いと成長、そして別れを描いた物語。





(担当者の感想) 終始にこやかな表情で、作品の持つ楽しいイメージをよく伝えられていたと思います。自分と同年代の主人公が1歳の子どもを育てることの大変さを、作品内のユーモラスなエピソードを交えて語り、パトラーの明るい語り口もよく、とても引き付けられていたと思います。

少し発表時間が余ってしまい、どうしようか困ったという展開だったので、この作品の前作にあたる「あと少し、もう少し」での主人公の活躍や、金髪不良でありながら心優しく意外に女子力の高い主人公のギャップの面白さ、ラストのホロリとなる別れのシーンなどを追加で盛り込んで時間配分することができれば、もっといい発表になったのではないかと思います。

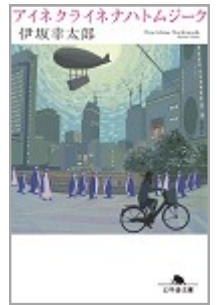
松山南高等学校(1年生) 杉野悠生さん 紹介本『アイネクライネナハトムジーク』(伊坂幸太郎//著)

《作品の紹介》『アイネクライネナハトムジーク』(伊坂 幸太郎//著)

『重カピエロ』、『ゴールデンランバー』などで知られる伊坂幸太郎の連作短編集。

収録された6編は、どこにでもある日常の小さなエピソードだが、それぞれの物語、登場人物が異なる時間軸で繋がっており、緻密に張られた伏線がそれぞれの物語をより面白いものになっている。物語同士の繋がりが明かされるたび、パズルがはまるような快感を覚えさせる作品。

冒頭の1編「アイネクライネ」は、シンガーソングライター斉藤和義さんの新曲のために書き下ろされたもので、斉藤和義さんは、それを原案に「ベリーベリーストロング～アイネクライネ～」という曲の作詞をしたそうです。



(担当者の感想)

冒頭、本のタイトル名である「アイネクライネナハトムジーク」のメロディを口ずさむことで、会場の空気を和ませ、一気に引き込んだのはいいアイデアで素晴らしいかったです。自分自身がリラックスする効果もあったのではないかと思います。

この作品の一番の持ち味である各短編の物語同士の繋がりと、それが明らかになった時の快感・面白さを、しっかりとした口調で、わかりやすく伝えることができていました。

作品の内容について少し説明不足なところはありましたが、ディスカッションでの質疑応答でしっかりと答えることにより、その点も補完することができ、とてもバランスの取れた発表となったと思います。いい発表をして聴衆の興味を引くと、自然にいい質問が出るということがよくわかりました。チャンプ獲得おめでとうございます！



チャンプ獲得！



発表パトラーと紹介本の一覧



…チャンプ本

	学校名	学年	氏名	紹介本
	松山東高等学校	高1	北山 菜吟	『塩の街』 (有川 浩//著・角川書店、メディアワークス)
	松山城南高等学校	高3	藁池 将成	『メタルギアソリッド ファントムペイン』 (野島 一人//著・角川書店)
	済美平成中等教育学校	中1	杉山 千笑	『ストロベリーライフ』 (荻原 浩//著・毎日新聞出版)
	新田高等学校	高2	一柳 侑里	『君の臍臓をたべたい』 (住野 よる//著・双葉社)
	新田高等学校	高1	筒井 大晴	『君が夏を走らせる』 (瀬尾 まいこ//著・新潮社)
	松山南高等学校	高1	杉野 悠生	『アイネクライネナハトムジーク』 (伊坂 幸太郎//著・幻冬舎)